

埼玉県 MINJIKYO DAYORI 民児協だより



平成27年10月1日発行

No.146



幸せを呼ぶ直紀の世界 「八丁湖」(吉見町)

画：飯野 直紀

吉見百穴の近くに八丁湖という人工の湖(水田耕作のために造られた溜め池)があります。湖の周りのウォーキングロードを歩いていると、たくさんの猫に逢えました。紅葉がとても綺麗です。とても気持ちの良い秋の一日を満喫できます。

- 目次**
- 平成27年度 第41回「埼玉県民生委員・児童委員会大会」開催 2-4
 - 共同募金運動に協力しましょう 5
 - 平成27年度「第75回関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会」参加報告 6
 - 平成27年度「民生委員・児童委員のための相談技法研修会」参加報告 7
 - 平成27年度「ブロック別市町村民児協会長連絡会議」開催 8-9
 - わがまちの民児協活動紹介ルポ(幸手市・三芳町) 10-11
 - 民生委員・児童委員の声(寄居町)、県民児協の3カ月の予定 12

埼玉県民児協だよりでは、「民生委員及び児童委員」を「民生委員」と、「民生委員・児童委員協議会」を「民児協」と表記しています。



この広報紙は、共同募金の配分金により発行されています。

第41回 埼玉県民生委員・

児童委員大会開催

平成27年9月17日(木)、「平成27年度 第41回埼玉県民生委員・児童委員大会」がさいたま市浦和区の「埼玉会館・大ホール」で、埼玉県内の民生委員や関係団体、行政・社協職員等1300名余の参加を得て、盛大に開催されました。



日程

- 開会のことば
- 国歌斉唱
- 慰霊黙祷
- 民生委員信条朗読
- 主催者挨拶
- 来賓祝辞
- 来賓紹介
- 民生委員及び児童委員知事功労章授与
- 優良民児協表彰
- 永年勤続単位民児協会長表彰
- 受賞者代表謝辞
- (休憩) 民生委員音頭
- 拉致被害者家族からのメッセージ
- 講演
- 宣言採択
- 斉唱「民生委員の歌」
- 閉会のことば



埼玉県議会議長
本木 茂 氏



「御労苦に深く敬意を表します。」

来賓祝辞

奥富県民児協会長



「皆様方の長い期間にわたる御尽力に対し、心からの敬意と感謝を申し上げる次第であります。」

塩川県副知事



「県民誰もが安心して暮らせる地域社会づくりのため、お力添えをいただくことを改めてお願い申し上げます。」

主催者挨拶

表彰状授与 (敬称省略)

◆民生委員及び児童委員知事功労章受章者

熊谷市	目黒 みち子
川口市	須賀 千晶
所沢市	橋爪 猛
加須市	尾高 幸江
加須市	島田 裕美
春日部市	君村 恵美子
春日部市	渡邊 文子
春日部市	天海 茂子
上尾市	常木 順子
草加市	関島 和子
草加市	木村 園子
新座市	山田 邑子
新座市	渡邊 八重子

13名

知事功労章受章者



◆優良民児協表彰受賞地区

加須市 大和根地区 民児協
春日部市 豊野地区 民児協

◆永年勤続単位民生委員・児童委員協議会会長表彰受賞者



受賞者代表
入間市豊岡第二地区
木下 登 氏

越谷市 越ヶ谷地区 民児協
久喜市 菖蒲地区 民児協
川越市 第1地区 民児協
飯能市 原市場地区 民児協
東松山市 野本地区 民児協
入間市 豊岡第二地区 民児協
鳩山町 民児協
川口市 横曽根地区 民児協
鴻巣市 鴻巣南地区 民児協
蕨市 中央地区 民児協
朝霞市 南西部地区 民児協
熊谷市 第11地区 民児協
深谷市 藤沢地区 民児協
15地区民児協

川越市 高階地区 民児協
会長 芝波田 静香
富士見市 みずほ台地区 民児協
会長 加光 直美

2名



県民児協男女共同参画
推進部会常任委員による
民生委員音頭披露

民生委員音頭



民生委員及び児童委員
知事功労章
加須市 尾高 幸江 氏

受賞者代表謝辞



受賞者代表
川越市高階地区民児協
会長 芝波田 静香 氏

埼玉県民生委員大会は、県民児協男女共同参画推進部会及び埼玉県、関係団体等の協力を得て運営しました。

大会運営のご協力
ありがとうございました



県民児協男女共同参画推進部
会員勇志

民生委員の歌(花咲く郷土)斉唱



飯塚繁雄氏による拉致被害
者救済に向けたメッセージ

拉致被害者家族からのメッセージ



当日の受付の様子

大 会 宣 言

今日、少子高齢化や核家族化が進む中、多様な生活課題を抱え、支援を必要とする人々が増えています。特に、経済的困窮や社会的孤立の状態にある方への支援、高齢者・障がい者・児童への虐待や消費者被害の防止などは社会全体で取り組むべき課題となっています。また、子どもたちを狙った犯罪被害は後を絶たず、認知症高齢者が行方不明となる事例も増えています。さらに、大雨や台風など自然災害が全国各地で発生しており、今後の災害に備えた地域における避難行動要支援者支援体制の整備も重要な課題となっています。

本年4月から生活困窮者自立支援制度や子ども・子育て支援新制度が施行となり、介護保険制度の改正も行われました。これらの制度が目指すものは、住民同士の支え合い、助け合いにより安心して生活を送ることができる地域づくりであると考えます。そうした中であって、常に住民の立場に立って活動する民生委員・児童委員に寄せられる期待は一層大きなものとなっています。

本日、この大会の開催に当たり、私たち埼玉県民生委員・児童委員一同は、これからも、常に地域住民の立場に立ち、相談・支援活動を展開し、誰もが安心・安全に暮らせる地域づくりを目指し、各市町村民生委員・児童委員協議会活動の強化と地域福祉活動の推進に取り組み、もって、本県社会福祉の発展に寄与することを決意し、ここに宣言します。

平成27年9月17日

平成27年度 第41回埼玉県民生委員・児童委員大会

2011年3月11日、ものすごく大きく揺れたので、玄関を飛び出すと、目の前の道路が大きくヒビ割れていました。2度目の揺れの時は歩くこともできませんでした。その時、「津波がくる」と思いま

プロフィール
福島県新地町の元旅館「朝日館」の女将。東日本大震災による大津波で旅館と自宅を流出後、各地で被災体験を語っています。
被災地の慰霊と鎮魂、風化防止・次世代への伝承ならびに復興のために福島県から青森県までの祈りの道「東北お遍路」をつくる活動を行っています。



一般社団法人
東北お遍路(こころのみち)
プロジェクト
理事 村上 美保子 氏

講師

講演

テーマ

「忘れたけれど忘れてはいけないこと、本当に大事なこと」



した。新地町出身の主人は「新地には津波はこない」と言っていました。70〜80年に一度大きな津波の被害がある岩手県三陸海岸岩泉町の小学校に通っていた私は、「大きな地震があったら津波がくるからできるだけ高い所に逃げなさい」と教わっていました。その教え（津波でんでんこ）が記憶のどこかにあり、津波のことを払拭できず避難することになりました。外では、防災無線が「津波がくるから避難してください」と流れていましたが、近所の方々はぼかんと立ち尽くしていたので、「早

く逃げなさい！」と声を掛けながら指定避難所へ向かいました。

私たちが避難所に着いてから5分と経たないうちに津波がきました。海は直接見えなかったが、海の方角に白い煙のようなものが見えたので、火事かと思いました。津波は波がザブンときてザブンと返すのが大きくなったものと私は思っていました。しかし、普段の海の波とまったく別のもの、大きな水の壁でした。その水の壁がものすごい速さで迫ってきて、家につかると水しぶきをあげて、あつ

という間に家がバラバラになり瓦礫となつて流れてきました。水煙と思つたのは、水しぶきでした。新地町の自宅は一部3階建てでしたが、すっぽり覆われる17・5メートルの津波がきていたことが後にわかりました。

避難所の生活が5月初旬まで続きました。人が多く、衝突ができないほどの狭さでしたが、それが親近感を生み上手く運営でき、仮設住宅に移っても仲良く生活できました。

しかし、寒くなってくるとみんな家から出なくなつたので、何かできないかと思っていました。そんな時に横浜の手芸グループから「エコたわしを編みませんか？」と毛糸と編み棒をいただきました。私は全戸に「エコたわしを編んで売って日帰り温泉に行こう」というチラシを配りました。最終的に28人のおばあちゃんが集まって、週に1回、1時間はエコたわしを編み、2時間は売上で買ったお菓子でお茶会をしました。そして、日帰り温泉にも行くことができました。

高齡の方は上手いきましたが、仮設住宅にいた7人の小学生のことを考えなくてはなりません。各地からありとあらゆるおもちゃなどが送られてきました。そのため、避難所で最初に鉛筆1本貰えた時に喜んでいた子どもたちが「片付けなさいと捨てちゃうよ」と言うのと「捨ててもいいよ。いくらでもあるから」と言うようになっていました。そんな時、ボランティアの方から「子どもたちに何か作って売らせてみるのどうか」と提案があり、「マイタウンマーケット」を昨年12月までに11回開催しました。子どもたちがビーズで作ったアクセサリを売ったり、描いた絵のオークション、コンサートなどを行いました。その結果、子どもたちは自分で企画する・実行する・発表する・考えをまとめることがとても上手くなりました。

東北お遍路（こころのみち）プロジェクトは、千年に一度ともいわれる「東日本大震災」で犠牲になられた方々への慰霊と震災の経験を千年先まで語り継ぐ場所として、巡礼地を福島県から青森県までの太平洋沿岸に設け、東北を訪れる人々の「こころのみち」として、多くの方に訪れてもらうことを目指しています。被災地に行つてみたいけど、観光では行きにくいという方でも、実際に来て現状を見てもらうことで、復興に弾みが付きます。

例えば、津波で流されたお墓や拾ってきた遺骨を納めている新地町の龍昌寺は、先祖の遺骨があると思つて手を合わせる、心の拠りどころとなつていきます。そのような巡礼地を今年の2月に53か所発表しました。今は地図に落とす作業をしています。ぜひ皆様方も東北をお遍路して欲しいと思います。

現在、各地の学校を回り、被災の話と共に「命の次に大切なもの」と題して、津波から船を命がけで守つたが家族



東北お遍路 第一号標柱 新地町龍昌寺

を亡くしてしまった漁師の方のお話を紙芝居で伝えていきます。

今の子どもたちは簡単に自殺をしたり、人を殺したりするが、震災で亡くなった二万六千人は死にたくて死んだ人は一人もいないと思います。その方たちが生きたかった未来を私たちは生きていることを子どもたちに伝えて、命の次に大切なものは何かを考えて欲しいと思います。それと共に、災害の時にどこに避難するのか家族で話し合ってください。そして、一人ひとりが自分の命を守って、決めた避難場所であうことを約束しておいていただきたいと思います。

共同募金運動に協力しましょう！



共同募金への担当地区内での

個人大口・法人募金協力者の開拓に協力しましょう～

地域における各種福祉サービス活動及び施設等における設備充実のために、共同募金運動に対して大きな期待が寄せられています。

県民児協では、7月に開催された理事会（7／13開催）及び評議員会（7／28開催）において、民生委員が地域福祉の推進役として積極的に共同募金運動に協力することを目的に、次のような申し合わせをしましたので、特段のご高配をお願いいたします。

平成26年度
一般募金目標額

682,000,000円
(支会募金670,012,000円、本部扱募金11,988,000円)

1 趣旨「個人大口・法人募金」協力者の開拓

各市町村共同募金支会における募金組織の活動方針に即応しつつ、各民生委員が支会の奉仕者として、担当地域内において主として「個人大口・法人募金」にかかる新たな理解者・協力者の開拓推進に協力する。

2 目標及び方法

- (1) 県民児協の「申し合わせ」として、おおむね1人の民生委員あたりに換算して、1万円以上の実績が上がることを目標として、協力者の開拓に努力するものとする。
- (2) この運動による実績は、全て各市町村共同募金支会の実績額に組み込まれるものであり、民児協としての特別枠をたてるものではないこと。
- (3) 実施にあたっては支会事務局と密接な連携のもとに同支会の策定する募金活動の要領に沿って実施するものとする。

3 その他

各市町村支会の募金については、（戸別募金・街頭募金・学校募金・バッジ、クオカード、図書カードを使用した職域募金並びに個人大口・法人募金）目標額の50%を超えた実績額が、地元市町村社協が行う地域福祉活動の財源として助成されることとなります。

平成26年度から共同募金運動の期間を10月1日から翌年3月31日までの6ヵ月間に拡大されました。

<例>

●100%の場合

目標額5,000,000円・実績額5,000,000円

5,000,000円 $\left\{ \begin{array}{l} 50\% = 2,500,000円 \\ 50\% = 2,500,000円(市町村社協に助成) \end{array} \right.$

●120%の場合

目標額5,000,000円・実績額6,000,000円

(5,000,000円) $\left\{ \begin{array}{l} 50\% = 2,500,000円 \\ 50\% = 2,500,000円 + 1,000,000円(目標超過額) \\ = 3,500,000円(市町村社協に助成) \end{array} \right.$



10月1日
浦和駅前
街頭募金

平成27年度「第75回関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会」参加報告

開催日：平成27年6月25・26日



埼玉県民児協副会長
(川口市民児協会長)
大谷 富夫

紫陽花が咲きほこる梅雨の晴れ間「平成27年度関東ブロック民生委員児童委員活動研究協議会」は各都県市から男性149人女性82人が一堂に会し、長野県軽井沢町「軽井沢プリンスホテルウエスト」で開催されました。

初日は式典に続き全体会、基調報告と進み、休憩を挟んで元NHKアナウンサー小宮山洋子氏による記念講演が行われ、夕食を兼ねた情報交流会は会場入口に設けられたテーブルナンバークジにて着座、主催県の郷土芸能お披露目の後歓談に、テーブルでは日頃の民生委員活動の話は尽きず盛会のうちに閉会となりました。



翌日は朝から曇天で時々霧雨が降る肌寒い生憎のお天気でしたが分科会会場内は大盛況でした。

テーマは「要介護や認知症の高齢者への支援に向けた取り組み」で、進行兼コーディネーターには長野大学学長の中村英三氏、4人のパネラーによる実践報告です。報告内容は今後間違いなく増えるであろう要介護や認知症への切実なお話で興味深く拝聴しました。

分科会全体を通して感じたことは、地域での今後の取り組みとして都会や地方の違いはあれ、地域密着型に主流を置いた取り組みが必要であること、人材も含め地域資源の発掘、高齢者が集える居場所作りの模索、考える福祉からデザインできる福祉へ向け関係機関との連携、高齢者を支えるための高齢者による高齢者の地域づくりお手伝い、子どもからお年寄りまで生涯地元で暮らせる環境整備と共通目的の提案、要介護予防のための自習教室の設置、認知症予防のために自助努力のアドバイス、福祉ネットワークづくりのために地域拠点づくりなど、今後民生委員として、各委員がそれぞれ活動エリアでできる取り組みの重要性を学んだ分科会でありました。

超高齢社会に向けた取り組みは始まったばかりですが、立ち止まっては行られない環

境になりつつあるようです。民生委員として結果を恐れず、元気に地域で暮らせる高齢者の応援団として、まずは心身ともに健康づくりへの応援、次に健康になった方々お一人おひとりに合わせた趣味やスポーツなど生きがいづくりの応援、夢を夢に終わらせない

ための応援、さらには委員自身もモチベーションを高めるため、イノベーションの獲得に努力をなされ、地域が元気な高齢者で満ちみちている、そんなステキな街になったらと思わせる活動研究協議会でありました。



2日目の分科会では、埼玉県を代表して、本会副会長(春日部市民児協 会長)鈴木浩子氏が「民生委員児童委員が活動しやすい環境づくりに向けた取り組み」と題して、春日部市民児協及び埼玉県民児協の取り組み

みを発表されました。

新任委員には、一人で抱え込まず、先輩委員に相談するようにと伝え、先輩委員には新任委員への同行訪問等のサポートをお願いしていることや、役員会後にも情報交換の時間をとり、役員へのサポートも大切に行っていることで、早期の退任を防ぐとともに、委員の力量の向上により、よりよい単位民児協の組織作りを行っていることが報告がありました。

平成27年度「民生委員・児童委員のための 相談技法研修会」参加して

開催日：平成27年8月27・28日

全国から148名の民生委員が参加（本県参加者4名）して、「民生委員・児童委員のための相談技法研修会」が神奈川県横浜市で開催されました。

2日間に渡る研修会は、元梅花女子大学准教授の植田寿之氏が講師を務められました。主な内容としては、「相談援助の視点と態度」「相談援助の原点と本質」「相談面接技法」と題した講義、「相談・支援活動のポイント（基礎編）」をビデオ学習、演習では「傾聴の基本」についてをグループに分かれてロールプレイが行われました。



上尾市民児協 会長
廣田 眞理子

「傾聴」についてはかねてより学びたいと思っていたがなかなか機会が得られなかったこともあり、期待感を持って拝聴致しました。いくつか事例をあげての説明はとても分かり易く引き込まれましたが、特に関心があった事例の一つあげてみますと、癌の末期で療養されている方に「私はもう駄目なのではないでしょうか」と悲観的に言われますとつい励ましたり同情しがちですが、好ましい傾聴的応答は「もう駄目なんだ…そんな気がするんですね」と返すということでした。

講義全般から「相談技法」の核心は①信頼に基づいたきかけづくり②相手の立場に立つ③相手の思いを受け止めると理解し、心を新たに致しました。



吉見町民児協 会長
國嶋 勇吉

研修後の振り返りシートでは、きっかけづくり、安心感を与える、話しの内容や言葉だけでなくその人の生活ぶりや態度、表情から相手が真に伝えたい思いや心情を汲み取ることが大切であるとのことでした。

今回の研修会で学んだことを具体的にすると、「本当のニーズを把握し支援につなげる」「社会的に孤立させない」「チームで活動する」「人間的な尊重をする」「父子・母子家庭は困っていると決めつけて上から目線で話さない」ことです。2日間の研修を終えてこの結果を地域の活動に生かせればと思っています。



横瀬町民児協 会長
黒澤 利夫

事例を班ごとに話し合い、まとめて代表者の発表が行われましたが、参加者の考え方や地域性・独自性もあり、総論的には同様でありましたが、違ったあるいは異なった視点から捉えた班もあり大いに学ぶことができました。

今回研修に参加させていただき、今まで頭では解っているつもり、理解・承知しているつもりが、「少し違うな」とか、「なるほどこういう考え方・対応の仕方もある」等々、改めて勉強させていただきました。

我々、民生委員は、あくまで行政や関係機関とのつなぎ役であり、地域の見守り役であると思います。

今回の研修で得たことを糧として、住民と適度な距離を保ちつつ、今後の活動に活かされればと思っています。



松伏町民児協 会長
奥富 久枝

一日半に渡る長時間の研修でしたが、講師の植田先生のユーモアに富んだ話術と実践に即した内容でしたので、睡魔に襲われることもなく充実した時間でした。

講義を受け、テーマごとにグループ討議、相談面接のロールプレイを行いました。

各方面からの方との討議、演習でしたので、民生委員としての関わり方、地域の環境（過疎、市街、大都市）の違いから、様々な意見がでました。

しかし、相談・支援の原点は、先生の講義の主題でもある「支援する人とされる人が支えあう」「相手を尊重し、寄り添って生きる」に尽きると思いました。

民生委員として、また一人の人間として今後の生活に生かしていきたいと思っています。

平成27年度「ブロック別市町村民児協会長連絡会議」開催

平成27年7月に各市町村民児協会長を対象に、県内4つの会場で「ブロック別市町村民児協会長連絡会議」を開催しました。この会議は、市町村民児協相互の連絡提携を図り、民児協活動及び運営上の諸課題について研究協議を行うことを目的に開催当番市のご協力を得ながら開催しています。

今年度は「生活困窮者自立支援制度と民生委員・児童委員に期待されている役割について」の講義と「一斉改選に係る民生委員・児童委員の推薦方法について」と題した実践事例発表と研究協議を行いました。



東部ブロック(加須市) 受付の様子

講義

「生活困窮者自立支援制度と民生委員・児童委員に期待されている役割について」講師

埼玉県福祉部社会福祉課

主幹 服部 孝氏



平成27年4月から生活困窮者自立支援法が施行されました。

法律の目的は、これまでの社会福祉制度では支援対象とならない「制度の狭間」に置かれた生活困窮者に対する支援を強化することです。そのため、生活困窮者を「現に経済的に困

窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者」と定義しています。が、はっきりと対象者を決めず、幅広く相談を受け、誰も排除することなく受け止めていくことを目指すものとなっています。

この制度が制定された背景には生活保護受給者数の増加があります。生活保護受給者数は平成23年に過去最高を更新し、それ以降も増加傾向が続いています。この要因の一つに雇用形態の変化が影響していると考えられます。

昭和60年に労働者派遣法が制定され、対象事業が拡大するにつれて派遣労働者が増加していききました。また、平成景気(バブル景気)の崩壊で、非正規雇用だけでなく正規雇用を含む多くの人が解雇され、さらに企業は国際競争にも巻き込まれ人件費を抑えられる非正規雇用労働者を多く雇うようになっていききました。そして、平成20年の世界金融危機(リーマ

ンショック)で派遣労働者の派遣切りと有期雇用者の雇止めがあり、失業者が一気に増加しました。

日本の社会保険制度は、正規雇用中心のセーフティネットとなっているため、非正規雇用労働者が失業すると、制度から漏れてしまい、生活困窮者が増える状況となったと考えられます。

その他に生活保護率が高くなる主な要因は、離婚率、核家族化率、ひとり暮らし率、高齢化率等が高くなることです。反対に、低くなる要因としては、就業率、三世帯同居率、持ち家率、共働き率、小中学生の朝食摂取率が高いことが挙げられます。

現在、全国的に見ると有効求人倍率は改善されていますが、生活保護受給者数の増加傾向は続いています。それは、生活保護を受給している高齢者世帯が増えているためです。その要因として次のことが考えられます。それは、高齢化による

高齢者数が増加していること、さらに言えば無年金・低年金の高齢者が増加しているのではないかとことです。つまり非正規雇用が増加することで現役世代に生活に困窮し、年



〔西部〕鶴ヶ島市(7月17日)



〔東部〕加須市(7月31日)

金保険料等の支払いが困難になつていく人が増えているのではないかとのことです。

日本の社会保険制度は現役世代が今納めている保険料が現在受給している方への年金等に充てられる世代間扶養となつていきます。そのため、現役世代が生活に困窮することは社会保険制度を揺るがすことになりまふ。さらに少子高齢化で年金の給付水準が低下されていく中、生活に困窮するリスクは高まつており、このままでは今以上に多くの生活保護受給者を生み出すことにもつながります。つまり、生活困窮は本人だけの問題ではなく、社会全体の問題として捉えなければならず、生活困窮者の早期発見・早期支援等が求められています。

そうした社会で民生委員には、今までの活動と同様に生活困窮者が地域から孤立しないよう、声かけと見守り役、そして早期発見と自立相談支援事業へのつなぎ役として協力することが期待されています。そうして、誰もが排除されない、お互いに支え合う地域社会を創つていきましょう。

実践事例発表

来年度の一斉改選に備えて

「一斉改選に係る民生委員・児童委員の推薦方法について」をテーマに、各市町村で実施している民児協の活動について実践報告を行いました。

【発表者】

○東部ブロック

加須市大桑地区民児協

会長 尾高 幸江 氏

○西部ブロック

鶴ヶ島市福祉政策課

主査 田中 英雄 氏

○南部ブロック

桶川市東第2地区民児協

会長 小池 光雄 氏

○北部ブロック

本庄市藤田・仁手地区民児協

会長 中野 勝三郎氏

研究協議

「一斉改選に係る

民生委員・児童委員の

推薦方法について」

埼玉県民児協

常務理事・事務局長

都倉 大介



民生委員の定数に対する充足率は、3年に一度の一斉改選

ごとに低下しています。民生委員のなり手の確保が困難になつていく中、継続して民生委

交代の持ち回りであることも多く、また、地域の慣習で民生委員を輪番制にしているところもあり、民生委員の役割を認識していない場合や、地域の事情に通じていない面があります。

この選任方法では、適切な候補者を見つげにくく、民生委員の充足率を低下させる要因ともなっています。

地域住民から信頼を得ている候補者を推薦するために、市町村行政が民生委員候補者の選出を自治会長（区長）に直接依頼するのではなく、地域の実情を把握している民生委員又は地区民児協が候補者を選出し、自治会長（区長）へ推薦を依頼したり、退任者についても民児協で把握したうえで、自治会へ発信するなどの方式をとることにより欠員が少なくなり、一定の成果を上げています。

もちろん、日頃から自治会と民生委員が密に連携をとり民生委員の仕事を理解していただくことも必要です。

また、国において「民生委員・児童委員の活動環境の整備に関する検討会」報告書（平成26年4月）では、昨今の活動量の



〔北部〕本庄市（7月24日）



〔南部〕桶川市（7月9日）

増大等により負担や責任を感じている民生委員が増加している中で、この制度を維持し民生委員が行政や地域住民が期待する役割を果たしていくためには、民生委員が地域の要としてますます活躍できる環境の整備が必要であるとされています。

わがまちの 民児協 活動紹介ルポ ～第27回～

幸手市民生委員・
児童委員協議会



会長 秋間 國夫

概況(平成27年9月1日現在)

- ・人口.....52,830人
- ・世帯数.....22,200世帯
- ・高齢化率.....29.4%
- ・単位民児協数.....4地区
- ・民生委員定数.....82人
- ・主任児童委員定数.....8人



幸手市マスコットキャラクター
さっちゃん

幸手市は、埼玉県北東部に位置し、江戸時代より日光街道の宿場街として栄え、日本橋より約40km利根川を渡るまでの中継地となっています。江戸川とも隣接し、関東有数の穀倉地帯でした。明治天皇行幸の地として行幸(みゆき)湖(人造湖)を見下ろす権現堂川堤は埼玉県内有数の桜と菜の花の景勝地となっています。



▲幸手市の絶景 桜と菜の花

明治22年に町村がしかれたのち、何度かの合併、編入、分離を経て、昭和31年に幸手町が誕生。さらに昭和47年の

都市整備・公団の団地完成により人口が増え、幸手市となりました。平成27年3月首都圏中央連絡自動車道幸手インターチェンジの開通(側道)により、出口周辺に産業団地の造成も着々と進められ、大きく変わろうとしています。

幸手市民児協の活動

幸手市民児協では、各地区民児協の正副会長で組織される地区会長連絡会を約2ヶ月に1度開催し、幸手市民児協全体の運営について協議を行っています。

また、中学校区で民児協が4つに分かれており、それぞれ第1地区・第2地区・第3地区・第4地区と呼んでいます。地区の定例会は約2ヶ月に1度開催し、情報交換やスキルアップのための研修を行っています。

研修活動の充実

平成25年12月の一斉改選により、32名の新生民生委員・児童委員が誕生しました。即戦力の養成が必要なことから、様々な内容の研修を行っています。

幸手市民児協では年に3回、委員全員が参集する「全体研修会」を企画し、今年度7月

に開催された研修会では幸手市役所介護福祉課の職員を講師に「認知症サポーター養成講座」を開催しました。こうして、委員全員が、認知症について正しく理解し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者である認知症サポーターとなりました。

高齢者が元気で暮らせるまちへ



▲ふれあいバスの旅

65歳以上の单身高齢者宅を訪問し、振り込め詐欺や、交通事故の被害にあわないよう呼びかけ運動を行っています。夏季期間には熱中症対策のチラシを配布する運動も行っており、高齢者が健康で安全に暮らすためのお手伝いをしています。

市社協の会員で65歳以上の

子育てを応援する運動

ひとり暮らしの方を対象とした市社協主催の「ふれあいバスの旅」へ幸手市民児協からボランティアとして参加しており、参加者の皆さんと楽しい時間を過ごしました。



▲さって子育てサロン「陽だまり」

保育園や幼稚園に通園していない子育て世帯を対象とした、主任児童委員主催による「子育てサロン陽だまり」を毎月第2金曜日に開催しています。また、小中学校の運動会への参加や、中学校の合唱祭の鑑賞等、小中学校との連携しています。

全国的に少子化が進み、幸手市でも子どもが減少している現状から、子育てを支援する運動を積極的に行っています。

概況(平成27年9月1日現在)

- ・人口……………38,228人
- ・世帯数……………15,761世帯
- ・高齢化率……………26.3%
- ・単位民児協数……………1地区
- ・民生委員定数……………58人
- ・主任児童委員定数……………3人

三芳町民生委員・
児童委員協議会



会長 三瓶 スミ子



三芳町は、首都圏30キロメートルに位置し、徳川家康の関東入国以降、武蔵野台地の開発がすすみ、元禄7年、川越藩主・柳澤吉保による「三富新田開拓」が実施され、長期間にわたり純農村地帯として歩んできた自然豊かなまちです。

現在、東に国道463号、西に関越自動車道が通る恵まれた交通環境を背景に工業団地や流通拠点としての倉庫群を連ねております。また、関越自動車道三芳パーキングエリアには、スマートインターチェンジを誘致し、まちの将来都市像を着実に進めております。

本年5月には、全国の自治体広報の日本一を決める平成27年全国広報コンクルの審査結果が発表され、広報みよし11月号の表紙写真が「内閣総理大臣賞」を受賞し、日本一に輝きました。さらに、平成26年12月号が広報紙部門で入選、AR(拡張現実)で手話を学べる動画が映像部門で2席に選ばれました。埼玉県町村部、関東1都6県の町村部が内閣総理大臣賞を受賞するのは史上初。埼玉県では平成11年の蕨市以来16年ぶりの快挙となりました。印刷以外

のすべてを職員が行い、業者委託はゼロ。三芳町の広報が注目されています。



▲「内閣総理大臣賞」受賞の表紙

三芳町民児協の活動

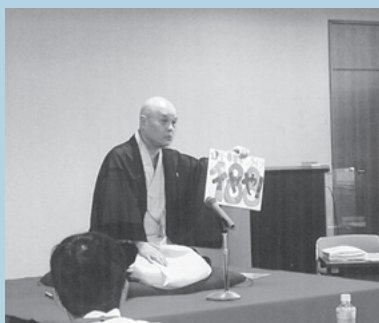
三芳町民児協では、高齢者部会、障害者部会、母子・児童部会の3部会を設け、各部会毎に計画をたて、部会の内容に沿った学習や視察見学を実施しています。各部会とも20名前後の人数ですので、日頃の活動の悩みや体験等も話題になり、交流を深める場に



▲高齢者部会による施設見学

もなっています。

定例会は毎月第2金曜日と定め、最新情報の提供や必要に応じた研修を取り入れ、地域住民の一番身近な相談相手として対応できるよう活動しています。最近では高齢者への悪質商法防止として、落語家の夢見亭わっぱ氏をお招きして、笑いの中にもポイントを押さえた楽しい研修を実施しました。このように多様化している民生委員活動ですが、関係機関と連携し住民に信頼されるよう努めています。



▲悪質商法防止落語

強化週間の取り組み

毎年、民生委員・児童委員の日にあわせ、地域住民に担当民生委員を知ってもらい、活動内容を理解していただくため、民児協らしいグッズを作成し、有効活用しながら、各地区でPR活動を展開しています。また、グッズは強化

月間終了後も高齢者の会食会や子どもフェスティバル、日常の訪問活動にも大いに役立っています。



▲強化週間PRグッズ

視察研修

例年、総会が開催された翌月に一泊の視察研修を実施しています。今年の6月には、静岡県にあります「ねむの木学園」を訪ねました。

「だめな子なんかひとりもない」との言葉は学園長の宮城まり子さんのモットーです。1968年に設立し、現在では健康な人、ハンディを持った人、老人、若者が共に暮らせる「ねむの木」村を運営しています。

三芳町では、社協が中心となり「次世代を担う子供たちの支援検討委員会」が発足し、民児協からも構成メンバーとして、3名参加しております。今後このような委員会等を通じて困難を抱えている子供たちの支援につながるよう努めていきたいと思います。

「民生委員・児童委員の声」



寄居町民生委員・
児童委員協議会

会長 池田 和男

渋沢栄一のころ

昨年7月北部ブロック市町村民児協会長連絡会議が、深谷市渋沢栄一記念館で開催されました。会議終了後、館長さんより渋沢栄一の功績（会社設立500社以上）等々を聞きながら、意外と知られていない社会福祉の分野と、生産の基本的な考え方について、興味を抱きました。

栄一は榛沢郡（現深谷市）血洗島の裕福な農家に生まれました。子供のころ父親からは律儀さ、人への思いやりを、母親からは慈悲のころを学びました。

当時の血洗島近郷は養蚕の盛んなことはよく知られていますが、それ以上に藍の生産も盛んでした。何故かという養蚕よりも価格が良かったからと聞いています。館内には藍玉の番付表がありますが番付を作るに当たって、生産量の多少によるのではなく、品質の良さによって決めていたようです。日本企業の製品の良さは栄一の考え方が底辺に脈々と生き続けているのではないのでしょうか。

江戸時代、時の老中松平定信が儉約令の政策を行う中で、災害時の基金を積み立てていました。明治7年東京府からの要請で、その基金を使って身寄りのない子供や老人を養う施設「東京市養育院」に関わり、以後92歳の天寿をまっとうするまで56年間も熱心に院長を務めました。

栄一91歳の12月のこと風邪のために寝ていた栄一のもとに20数名の方面委員（現在の民生委員）が尋ねて来て、寒さと飢えのために20万人もの人が苦しんでいる。政府は予算が無いのを理由に救護が進まないと訴えました。

栄一は主治医に向かって「先生のお骨折りでこんな老いぼれが養生していますのはせめてこういうときの役に立ちたいからです。もしこれがもて私が死んでも20万人の不幸な人達が救われれば、それこそ本望じゃありませんか」と答え、政府に交渉したそうです。

物が豊かな現代の私たちが忘れてしまった大切な「心」を身体の中からつかみ出されたような気持ちで記念館を後にしました。

平成27年 県民児協の予定

10

1日～	赤い羽根共同募金運動	
8日	主任児童委員セミナー	市民会館おみや
9日	生活福祉資金貸付制度説明会	市民会館おみや
11日	防犯のまちづくり県民大会	市民会館おみや
15～16日	全国民生委員児童委員大会	富山県富山市
31日	埼玉・教育ふれあい賞表彰式	さいたま共済会館

11

2日	現任）主任児童委員研修A	すこやかプラザ
5～6日	すこやか会（OB会）視察研修	山梨県
7～9日	全国民生委員リーダー研修会	東京都
13日	埼玉県更生保護大会	市民会館おみや
20日	全国社会福祉大会	東京都
20日	埼玉県社会福祉大会	さいたま文化センター
22日	みんな幸せ・共生社会 県民のつどい	狭山市
25日	現任）主任児童委員研修B	すこやかプラザ
26～27日	理事・監事・評議員 男女共同参画推進部会合同県外視察研修	長野県上諏訪

12

1日	現任）主任児童委員研修C	ウェスタ川越
4日	広報委員会	すこやかプラザ
18日	正副会長会議	すこやかプラザ
19日	第9回埼玉一賞表彰式	本庄市

「民生委員・児童委員の声」原稿募集中

— 民生委員が日頃の活動の中で思ったこと、知って欲しいことなどを広く一般県民の方々に知ってもらうためのものです。
— 会員の皆さん奮ってご投稿くださいますようお願いいたします。

※【民生委員・児童委員の声】募集要領

- 1 民生委員・児童委員活動に関することであれば内容は自由です。
- 2 原稿は、800字以内とする。
- 3 応募は1人1任期中1回限りとする。
- 4 掲載は毎月1人とし、投稿者氏名及び市町村名を掲載する。
- 5 発行月の2ヶ月前までに応募いただいた原稿の中から、広報委員会にて選考のうえ掲載する。
なお、加筆・修正等をする場合があるので、住所・電話番号を必ず明記のうえご投稿ください。
- 6 投稿された原稿は返却しません。

提出先

〒330-0075
さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ
一般財団法人埼玉県
民生委員・児童委員協議会
広報係宛

編集後記

秋は、「食欲の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」など、暑すぎず、寒すぎずの気候のもと様々な活動が活発に行われる季節です。先月、県社協では、「彩の国すこやかプラザ」を会場に秋のお祭りオータムフェスタを開催しました。小学校や地区社協等の地元で活動する団体・グループの参加協力もあって大盛況でした。

皆さまの地域でも様々な活動が行われることと思いますが、皆さまの活躍の様子や活動の参考となるような内容をわかりやすく伝えられるよう、私も広報委員会の一員としてよりよい紙面づくりに努めていきたいと思っていますのでよろしくお願いします。（県社協 宮澤 良子）